

会 告

「降雨浸透過程モデリングに関する研究委員会」の委員募集

調査・研究委員会

地下水に関わる問題において重要な課題の一つである降雨浸透過程は、多相流体挙動が本質的にもつ非線形性や、地表と地下での流体挙動の取り扱いに関する考え方の煩雑さもあり、その適用には、多くの留意すべき点が存在することが知られています。いわゆる「不飽和帯の状態依存境界条件設定」等は、その一例としてあげることができます。さらには、問題によっては、一般に用いられている「飽和-不飽和流れ」の考え方に基づくアプローチでは対応できない問題（例えば、気相が圧力を持つような場合）もあり、その対応として、二相流の導入をはかることもなされてきています。より包括的な取り扱いとしては、地表と地下での流体挙動を一体的に扱うということもなされています。その一方で、「数値解析パッケージ」が普及した結果、問題の複雑さや留意点を十分に理解しないまま、高度なモデルを利用することによる課題も発生しているのではないのでしょうか。

このような現状において、本研究委員会では、降雨浸透過程モデリングに関する最先端の理解について取りまとめ、今後の研究に資するとともに、実務的な取り扱いにおける留意点等を取りまとめ、学会員の研究・実務両面に資する成果を得ることを目的とする活動を行います。そこでは、学生・若手研究者等の人材育成にも資するものとするように、成果の取りまとめにおいては留意することを考えています。

具体的な活動として、現時点では、以下の観点からの研究を念頭においています。

1. 降雨浸透過程モデリングに関する現状の把握(特に、飽和-不飽和流れ、二相流、地表・地下流体統合モデルの現象の取り扱いとその特性・適用限界・課題等の整理)
2. 極めて強い非線形性を持つ問題としての降雨浸透過程モデリングの数値的取扱いに関する現状の理解と課題の整理
3. ベンチマーク問題（のようなもの）の提案とその普及方針の検討
4. 降雨浸透過程と地下水学におけるブレイクスルーの模索

なお、委員会の初年度に、1. 及び 2. のテーマについて検討を行い、2年度に 3. の検討を行う予定としています。4. については、委員会期間を通して検討を継続する予定です。

つきましては、研究委員会委員の募集を行いますので、上述の趣旨に賛同いただき、研究活動に参加いただける方は、下記連絡先までお申し込み下さいますようお願いいたします。

発起人：斎藤広隆・末永弘・田原康博・徳永朋祥・菱谷智幸

記

応募期限：2018年3月15日

申込先：日本地下水学会事務局「降雨浸透過程モデリングに関する研究委員会」担当まで
メールにてお申し込み下さい。

電話：03-3549-1135 FAX：03-3549-1135

Mail：chikasui@nifty.ne.jp

以上